

「新型コロナ感染拡大の学生生活への影響調査」の中間結果報告

2020年4月22日

学生アドボカシー・グループ 高等教育無償化プロジェクト FREE

私たち高等教育無償化プロジェクト FREE は、「新型コロナ感染拡大の学生生活への影響調査」を今月9日からインターネットで行い、119の大学、短大、専門学校等から、514人の回答（21日午後10時現在）がありました。現在までにわかったことは以下の通りです。

1、「家族の収入が減った」「なくなった」学生が4割、「アルバイトの収入が減った」「なくなった」学生が6割など、コロナ禍による経済被害が学生を直撃し、13人に1人が「大学をやめる」ことを検討しはじめている。日本の高学費の負担がさらに重くなっている。

家計を支えている方の収入・事業・仕事への影響について、「収入が減った」と答えた学生が36.4%、「収入がなくなった」と答えた学生は3.3%でした。現在の日本の学生にとって、アルバイトは学生生活を続けるうえで必須です。回答者の6割が「バイトを生活費に使っている」、17%が「学費に」と回答しています。コロナ禍のなかで、約6割の学生が感染拡大による影響でバイト収入が「減った」（37.4%）ないし「ゼロになった」（23.0%）ことがわかりました。以上の結果、7.8%、13人に1人の学生が大学等をやめることを検討していることがわかりました。

- ・ 「父が自営業をやっているが以前から経営が苦しく、今回のコロナで売り上げが8割減って、以前にも増して経営と生活が苦しくなった。両親は『お金のことは心配せず、しっかり勉強しなさい』と言ってくれるが、個人的には大学を辞めざるを得ないのか不安」（私立大学3年・世帯年収1000万円以上）
- ・ 「来月の生活費が払えない」（国立大学4年・世帯年収380万～500万円）
- ・ 「3月時点でシフトが減らされ収入が激減していたが、緊急事態宣言を受けてアルバイト先が休業した。休業補償を受けられず、このままでは学費が足りなくなる」（国立大学3年・世帯年収500万～600万）
- ・ 「ダブルワークをしていたが両方休業になり、アルバイトには休業手当も出ず収入が1/5になって来月にはゼロになった」（国立大学2年生・世帯年収270万未満）

2、大学や専門学校での勉学、研究に大きな障害が生まれている

多くの大学や専門学校で、オンライン授業が行われます。それにより、約2割の学生がパソコンやWi-Fi環境の整備により経済的不安が増えると回答しています。「オンライン授業を落ち着いて受講できる環境がない」と答えた学生は、全体の約33.9%に上ります。

また、実習が中止になったことで資格取得ができるか、研究室や図書館の閉鎖によって研究や卒業論文ができずに卒業できるか不安だという声が寄せられています。

- ・ 「教育学部で卒業要件にあたる介護実習を今年受ける予定だが、今後どうなるのか分からない。また今年取れる単位が減ると（必修が多いため）卒業に関わるので困る」（国立大2年生）
- ・ 「図書館が使えなくて本が読めない。PCがないので図書館で使えないと困る」（私立大2年）
- ・ 「大学生活最後の1年間に予定していた授業、ゼミ、卒業制作、自主制作、サークル、芸術祭、アルバイト、友人との時間全てが制限されたため、悔しい。できることなら半期か1年学事予定をずらしてほしい」（私立大学・美術系4年）
- ・ 「4年後期から留学予定だったが、中止になる可能性もあり、そうすると、卒業しなくてはいけないので、路頭に迷う。」（私立大学4年）

3、メンタルをはじめ、健康面で大きな負担と不安が広がっている

大学生や専門学校生の中には、一人暮らしをしている人も多くいる中で、学校にも行けず、帰省もできず、不安な気持ちを抱えて過ごしています。

- ・ 「消毒用のアルコール、マスクが手に入らない」(私立大学3年生)
- ・ 「ストレス、倦怠感、寂しさ」(私立大学4年生)
- ・ 「ベッドと机で部屋の半分が埋まるような狭い部屋なので、ずっとこもっているのはきつい。運動不足。人と話す機会が減った」(国立大学4年生)
- ・ 「狭い部屋にずっと一人なので気が狂いそう」(私立大学2年生)
- ・ 「大学が閉まっていて、大学の学生相談室でのカウンセリングを受けたいが、受けられない」(国立大学4年生)

4、「政府や大学に対する要望」では、経済的支援を求める声が非常に強い

今私たちが確認しているだけでも、4月21日時点で51の大学で、大学に経済的支援を求める学生の署名が行われています。

私たちの調査にも、経済的支援を求める声がたくさん寄せられました。

- ・ 「自粛をお願いしても補償がなければ休めません。しっかり全額補償を」(私立大学/世帯年収600~800万)
- ・ 「感染拡大を防ぐために、必要などころにお金をしっかりかけて対策してほしい。学生は高学費の辛さがコロナによって様々な形で大きくなっているから、全学生への学費負担を軽減することに取り組んでほしい」(私立大学/世帯年収600~800万)
- ・ 「学費の減免措置。遠隔授業受講環境を構築することへの援助」(国立大学/世帯年収800~1000万)
- ・ 「両親ともに収入が減ると既に職場から言われているので、このまま学業を続けるためにも大学授業料の政府支援や、奨学金も無利子にしてほしい」(私立大学/世帯年収1000万以上)
- ・ 「学費減免を必要としているのは収入が激減した家庭だけではなく。元々ギリギリのところでもやりくりしている家庭では少しの収入源でも大学で学ぶことが難しくなりかねません。どうかご配慮をよろしくお願いします」(国立大学/世帯年収500~600万)

5、このままでは、新型コロナに学生生活と未来が奪われる世代が生まれる恐れがある

- ・ 「実習で医療機関に行けなくなると卒業できなくなるのか」(国立大学/600~800万)
- ・ 「資格試験が受けられないかもしれない」(国立大学/世帯年収800~1000万)
- ・ 「博物館自体が休館中で再開の目処が立たず博物館実習の詳細が未定。就活は企業から連絡が一切来なくなり、進まない状況」(私立大学/世帯年収270万未満)
- ・ 「厚生労働省が定めている国家試験を受ける条件で、実技を規定時間修めるという項目が取れない」(美容専門学校2年/世帯年収270万未満)

求めている大学の学びができるのか、自己実現のための資格は取れるのか、実習ができずに教職や医療職につけるのか、就職氷河期がきたらどうすればいいのかなど、学生は大学での学びと未来に対して大きな不安を抱えていました。この世代が、大規模な対策を講じられることなく社会に出た場合、本人と日本社会全体の大きな損失となる恐れがあります。

以上